

新潟県立 新潟工業高校

新潟県内100の中 学校から入学者が集う 新潟県立新潟工業高校は、勉学に加えて伝統的に部活動が盛んだ。



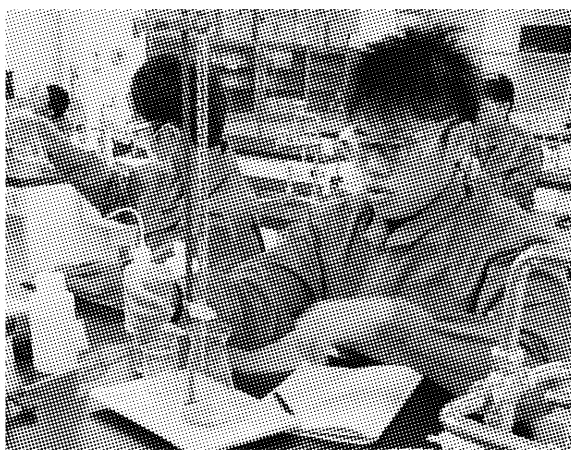
小杉校長

全国大会に13年連続41回の出場記録を誇るラグビー部や、16年連続で全国大会への出場を果たしたロボット部など、運動部、文化部を問わず活躍が目覚ましい。例えば、地域との連携では、学生に地域の

【DATA】▷校長=小杉克彦氏 ▷所在地=新潟市西区▷学科構成=機械科、電気科、工業化学科、土木科、建築科(建築コース、建築設備コース)▷生徒数=926人(17年5月1日現在)▷主要設備=マシニングセンター、6尺旋盤、NCフライス盤、バイオリアクター▷主な進路=JR東日本、東北電力、ホンダ、北越エンジニアリング、富士通フロンテック、国際石油開発帝石、国土交通省、新潟市役所、前田道路、福田組、千代田設備、新潟大学、芝浦工業大学、千葉工業大学、東洋大学、日本大学など

地域とグローバル両輪に

同校が力を注いでいるのが「地域」に根ざった「グローバル」の育成だ。その一環として2015年度から取り組んでいる独自の「新工未来プロ」の就職率の向上について説明を受け、英語による課題研究の発表などを実施。語学力とコミュニケーション能力の習得を後押ししている。こうした取り組みの成果は、すでに目に見えて説明を受け、英語による形で表れ始めている。毎年10人前後で推移していた国公立大学への進学者数は、同プロジェクト2年目の16年度が終わった時点で過去最高の19人にまで増加。就職率に関して「スーパードロフェ」(新潟支局長・古谷一樹)が期待されている。



地域との連携を通じた人材育成に力を入れている

1ル(SPH)の指定を受け、17年度から3年計画で専門的職業人材の育成プログラムの開発に取り組む。具体的には、豪雪や災害の発生といった地域特性を踏まえ、地域熱を利用した換気システム「ジオパワーステム」を使い、自然エネルギーの活用技術などの研究開発を進める。

小杉校長が「プロジェクトが終わった後も『財産』を残したい」と話すように、技術の創出や課題解決能力を育む仕組みとなることが期待されている。

(金曜日に掲載)

育成モノづくり人材 Vol.65